



## ひと月遅れの新年会

今年の春節は二月の五日からであるが、東京駅や銀座、浅草をはじめとする都心や観光地は勿論のこと、地方も含めて中国人をはじめとする訪日客で大賑わいだ▼ちょうど春節の間に近所の酒屋で、ひと月遅れの新年会があった。この酒屋には、店舗の奥に六畳ほどの“サロン”があり、しばしば小さな集まりが催されている。その中の一つが民謡教室。月二回、集まって練習をしているが、そのメンバーが中心になっての新年会。尺八で民謡の伴奏をしてほしいとのリクエストがあつて筆者も参加したものであるが、民謡は半分。詩吟やよみきかせ、フラダンスにギター演奏もあり、まさに地域の学芸会。サロンの隣にある車庫にしている部屋から車を出し、ぶつとおしにして、一〇数名が集まった。平日の昼間ということもあつて全員が六〇代以上で、数的には女性優位。途中で弁当での昼食を挟んで、歌やにぎやかな笑い声が飛び交った▼平成に入る前後までは、この辺も魚屋、肉屋、スーパーもあつたが、今残るのは酒屋のみ。酒屋は酒類に加えて総菜や、一人暮らしの老人等へ仕出し弁当を作つて配達もしている。七〇代の姉妹二人で運営しているが、通勤帰りに一杯ひっかけていく人も含めて、買い物客の出入りは頻繁だ。昨年、酒屋の姉が膝の手術で入院した時には、出入りの客が店番したり、弁当作りを分担したりして支えた。当日出された弁当も参加者が手伝つて作ったとか。商店とはこうしたものだったようにも思うが、今はコンビニばかり。在来の商店には地域のたまり場としての機能も発揮しながら、頑張つて持続していつてほしい。

(土着菌)